札幌国際大学紀要，53：31-48，2022

〈論　文〉

オンライン英会話が英語学習に与える影響

片　岡　　晃
札幌国際大学スポーツ人間学部スポーツ指導学科

Influence of Online English Conversations on English Learning

Kataoka Ko（Department of Sports Instruction, Faculty of Sports & Humanities, Sapporo International University）

Anxiety has been categorized to play a negative effect on English acquisition. Significantly, three factors, namely, *communication apprehension, test anxiety, fear of negative evaluation*, are hypothesized to be main anxieties.
English I and II include online English conversations with Filipino teachers of English as of this period. Students enjoy talking with the teachers, whether or not they are good at pronunciation, grammar, or vocabulary.
Questionnaire data showed the influences of online English conversations as: *vital on anxiety, vague on motivation*.
Factor analysis on the questionnaire data showed three factors influencing anxiety as: (1) *panic factor against failure possibilities*, (2) *allergic anxiety factor to English ability*, (3) *negative awareness to native speakers*. It is worthy to notice that the analysis suggests that test anxiety influences remarkably less. Moreover, intrinsic motivation and high motivation increase, on the other hand extrinsic motivation and middle motivation decrease.
Interview data suggested that all interviewees have a positive attitude to online English conversations. The reasons not to feel anxiety to online English conversations are: habituation, delight, calm mind.
What should come next to improve English learning is yet to be studied.

キーワード：外国語学習不安　オンライン英会話　英語学習
Keywords：Foreign Language Learning Anxiety　On-line English Conversation　English Learning

Ⅰ　はじめに

外国語学習における不安は、外国語の習得を阻害するものとされている。Krashen（1982）は、情意的要因（affective variables）が第二言語習得の成功に関係するとした情意フィルター仮説（Affective Filter Hypothesis）の説明に際し、動機（Motivation）、自信（Self-confidence）と共に不安（Anxiety）を挙げ、“Low anxiety appears to be conductive to second language acquisition, whether measured as personal or classroom anxiety.”（「個人的な不安として見られるものでも、教室での不安として見られるものでも、どちらにしても低い不安は第二言語習得につながるようだ」筆者訳）としている（p. 31）。また、教室内の外国語学習に焦点を当てたHorwitz, Horwitz & Cope（1986）は、外国語の習得を阻害する学習不安の原因として⑴話したり聞いたりすることに対する不安＝コミュニケーション不安（communication apprehension）⑵失敗を恐れ自身に完璧を求めることから来る不安＝テスト不安（test anxiety）⑶テストに限らず教師や友人などから継続的に評価されていることに対する不安＝否定的評価に対する恐怖（fear of negative evaluation）の３つを挙げている。

筆者は、北海道内高等学校に勤務する英語教員に対するアンケート調査から、比較的行われている活動は、「日本語訳による英文理解」「英問英答などによる英文理解」「文法の説明と問題演習」であり、あまり行われていないのは「スピーチやプレゼンテーション」、ほとんど行われていないのは「ディベートやディスカッション」である実態を改めて確認した（片岡,2021）。スピーキングは高等学校時点であまり行われていないため、スピーキングに対して大学生が不安を感じるのは当然のことと思われる。

スピーキングと学習不安に関する研究は、大学生を対象にしたものでもいくつかなされている。磯田（2009）は、中国地方の大学１年生103名を対象に、英語でのスピーキングに対する抵抗感の軽減を目的の一つとしてSentence Per Minuteと呼ばれる指導を取り入れた結果を分析し、抵抗感の軽減に効果があったと推測している。飯村（2016）は、地方国立大学の１年生113名を対象に、英語によるプレゼンテーションコンテストと学習者の不安の関係を調査し、コンテストが学習者全体の不安の軽減に効果的な活動であることが認められたとしている。茅野（2018）は、英語学習に比較的熱心なCEFR B1以上の英語力を持つ大学生10名を対象に、即興的発話に対する不安感の要因を研究し、高校での書き言葉や正確さを重視した学習経験の影響を指摘している。

また、ここ数年、オンラインによる英語学習が一般的になるにつれて、オンライン学習の効果に関する研究が

増えてきている。遠山・森・新谷（2017）は、11 名の英語習熟度が低い大学生を対象に、計 100 分 3 回のオンライングループ英会話学習の効果を研究し、オンライングループ英会話学習の前後で英語スピーキング技能と英語学習不安は有意に改善し、英語学習に対する自己効力感と動機は若干の改善が見られたとしている。小林(2017)は、大学 2 年～ 4 年の英語再履修学生 5 名を対象に、1 回 25 分の英会話レッスンを春学期は 9 回、秋学期は 8 回行い、学期の初めと終わりに行った CEFR 準拠のスピーキングテストを実施した結果を研究し、英語力上昇に効果はあったのかは不明としながらも、学習意欲には効果があったことを示唆している。渡慶次・Fewell・津嘉山・Kuckelman（2017）は、中級レベルの大学生 50 人を対象に、1 回 25 分のオンライン英会話を 1 ヶ月に 8 回実施した結果を分析し、講義外での受講につながるほどの意欲高揚や動機の強化は見られなかったとしている。飯野・藤井・藪田・佐藤・中村・岡（2020）は、大学生 49 名を研究対象に、Web 会議を利用したロールプレイを通年行った結果を研究し、話す力が伸びたとしている。小林（2020）は、英語上級者 1 名の大学生を対象に、25 分 8 回の 1 ヶ月のオンライン学習を行った結果を研究し、スピーキングに対する学習不安の減少や自己効力感の向上が見られたとしている。

さて、本学英語Ⅰ・Ⅱ（1 年）では、2020 年度から、フィリピン人英語教師によるオンライン英会話を 3 人一組で、ほぼ 2 週間に 1 回 30 分、半期のうちに 5 回にわたって実施することとなった。多くの学生が、音声学的・文法的・統語的習熟の関係なく、余り緊張もせず楽しんで取り組み英語ができるようになったと感じ、全クラスで取っている授業後の 5 件法アンケートでも、概ね「話せるようになった」「楽しかった」との良好な反応が得られていた。

このことは、先行研究で示されているスピーキングに関する学習不安による学習の阻害とは異なる事象であり、その要因に興味を持った。例えば、発音に自信がない場合、語彙が貧弱である場合、文法的統語能力が低い場合には、話さなければならない状況で学習者は不安に襲われ学習阻害が起こると期待されるが、本学の状況は異なっていると思われた。また、この取り組みが学習動機の高揚にどの要因が効果的だったのかについても、調査が必要と感じた。本学のように、ある程度の期間にわたって英語習熟に関わりなく学年全員を対象に行われたオンライン英会話を研究したものも管見では見当たらないことから、オンライン英会話を取り入れた授業のどの要素が外国語学習不安を軽減し、学習動機を高揚しているかを明らかにすることを目的として、研究することとした。

なお、外国語を外国人と話すことに対する学習不安の変化や、それ以降の学習動機の変化は、多分に心理的なものである。改めて問われて考えられ、正直に誠実に表現されて初めて明らかになることと思われた。そのため、尺度を用いた質問紙調査を行うと共に、質問紙調査の回答者から抽出し半構造化面接調査を行うこととした。

調査に先立ち、本学研究倫理審査委員会に倫理申請を行い、受付番号 40（20499009）により承認を得た。

Ⅱ　質問紙調査概要

資料 1 に、質問項目を示した。逆転項目には番号の後に* を付してあるが、実際の調査時には付していない。

⑴　実施時期

2021 年 4 月及び 7 月

⑵　対象

本学 1 年生、英語Ⅰ筆者担当 3 クラス（54 名）。なお、筆者が担当したのは、年度当初の TOEIC Bridge スコアによって編成された 21 クラス中、第 3 クラス 20 名、第 6 クラス 20 名、第 20 クラス 14 名であった。

⑶　尺度

特に外国語を学ぶ際に感じられる学習不安を図るために、Horwitz et al.（1986）による『外国語教室不安尺度』（33 項目 5 件法）を筆者が日本語訳し、「外国語」を「英語」に変更したものを用いた。項目中、(2)（5）(8)（11）(14)（18）(22)（28）(32）の 9 項目を逆転項目とした。この設定は質問の文言から筆者が判断してのものだったが、八島静・山根・Kimberly・竹内・吉澤（2009）も同様の判断をしている。元田（2000）が日本語学習不安尺度を作成する際に参考にしたほか、MASUTANI（2021）や藤井（2021）も使用するなど、古典と言える尺度と思われる点を重視した。

英語学習に対する動機づけを測定するために、廣森（2005）による『英語学習における動機づけ尺度』（18 項目 5 件法）を用いた。本尺度は、自己決定理論による自己決定性の連続体として、動機づけを見ている。最も自己決定性の高いものを「内発的動機づけ」（本質問紙 34～37）とし、最も自己決定性の低いものを「無動機」（本質問紙 48～51）としている。自己決定性が両者の中間を「外発的動機づけ」とし、下位尺度として自己決定性が高い順から、「同一視的調整」（本質問紙 38～41）、「取り入れ的調整」（本質問紙 42～44）、「外的調整」（本質問紙 45～47）としている。動機づけ尺度の研究の中でも、大学生を調査対象とし英語学習に特化した研究の成果である点を重視した。

⑷　実施方法

MS Forms による調査を、4 月は調査同意や目的を説明した後 1 週間以内に回答するよう求めた。最初の質問で、本調査への参加同意の有無を問い、同意しない場合はそれ以上の質問を表示せず、すぐに送信することのみ可能とした。同意する場合には、質問の前に任意の 4 けたの数字を記入するよう求めた。この数字を、匿名性を

確保しつつ１回目と２回目の回答を同定するための ID として使用した。

⑸　回収状況

４月質問紙調査と７月質問紙調査の回答数と調査に同意した数は、次表の通りである。研究対象としたのは、同意が得られた回答のうち、無回答を含むもの、全ての質問にほぼ同じ回答であるもの、逆転項目に対する回答の整合性など、精査の結果信頼性に欠けると判断されるものを除いたものである。

なお、２回の質問紙調査で同定 ID として同じ数字を記入した回答は 12 件であった。

表１　回収状況

実施時期	2021 年４月	2021 年７月
回答数	44 件	40 件
同意数	39 件	35 件
研究対象数	37 件	33 件

Ⅲ　質問紙調査分析

資料２に、４月質問紙調査と７月質問紙調査の統計量の数値による要約を示した。

以下に述べる質問紙調査の統計処理は、R version 4.1.2（2021-11-01）を用い、補助として R Commander 2.7-1（2020-10-07）を用いて行っている。

１　学習不安に関する分析

⑴　質問別の分析

資料 3-1 に、学習不安に関する２つの質問紙調査の変化を、質問別に変化率順で示した。

33 項目の質問中、４月結果と７月結果を比較して質問別の平均値が減少したものが 23 項目、変化がほぼなかったか増加したものが 10 項目であった。

学習不安を示していた４または５との回答の合計の減少率に着目すると、20％以上の大きな減少率を示したのは次の質問である。

表２　大きな減少を示した質問

質問	減少率
（２）英語の授業で間違うことは気になる	▲25.8％
（19）先生が自分の間違いをいちいち直しそうなので心配だ。	▲23.0％
（28）英語のクラスに向かうとき自信がなくリラックスしていない	▲21.8％
（４）英語の授業で先生の言っていることが理解できないととても不安だ	▲20.9％

概ね、授業と間違うことに対する不安が低下していることが読み取れる。

また、４または５の回答が減少せず最も多く増加した３つの質問は、次の通りである。

表３　最大の増加を示した３つの質問

質問	増加率
（８）英語の授業中のテストではだいたい落ち着かない	＋22.5％
（12）英語の授業では、緊張のあまり、知ってたことも忘れてしまうときがある	＋19.3％
（23）常に他の学生の方が英語で話すのが上手だと感じている	＋11.5％

（8）については、15 回の授業中に２回 zoom による口頭試問を行ったため、テストに対する不安が増大したと考えられる。多くの学生にとって４月の段階では、テストは筆記を想定したと思われるからである。また、（12）については、多くの学生はオンライン英会話中に覚えた単語や表現が頭が真っ白になって出てこない経験をしており、その経験が７月質問紙調査に反映されたと思われる。さらに、（23）については、オンライン英会話では３人が１グループとなって会話することに加え、事前・事後の授業でもブレイク・アウト・ルームを活用するなどしてペア・ワークやグループ・ワークを取り入れたため、他の学生と自分を比較する機会を持ったためと考えられる。それまでは、他の学生が英語で話すのを聞く機会は多くなかったであろう。いずれの学習不安増大も、学習を阻害するものとは必ずしも言えないと思われる。

⑵　回答者別の分析

５件法で得られた回答者別の結果を数値化し比較するために、逆転項目については「全くそう思う」を１点、「全くそう思わない」を５点とし、逆転項目以外については「全くそう思う」を５点、「全くそう思わない」を１点と換算して合計点を算出した。

質問紙調査項目は 33 項目あるので、換算点は 33 点～165 点である

この尺度を用いた換算点の高不安～低不安までのレベル分けは Alrabai（2014）、Yaikhong & Usada（2012）、藤井（2020）に見られるが、管見によれば定説となるものはないように思われる。設問毎の平均値＋SD を利用することも考えられるが、回答分布が正規分布に従っているとは思えないため、本研究では次表の通りレベル分けした。

表 4　換算点によるレベル分け

レベル	換算点	備考
高不安	132～	平均 4.0 以上
中不安	116～131	平均 3.5 以上 4.0 未満
低不安	99～115	平均 3.0 以上 3.5 未満
無不安	98 以下	平均 3.0 未満

資料 3-2 に、学習不安に関する 2 つの質問紙調査の変化を、回答別に変化率順で示した。

このレベル分けによる分布は次の通りである。

表 5　レベル別分布

レベル	4 月質問紙調査	7 月質問紙調査
高不安	5（13.5%）	6（18.2%）
中不安	17（45.9%）	6（18.2%）
低不安	5（13.5%）	10（30.3%）
無不安	10（27.0%）	11（33.3%）

中不安レベルが大きく減少して低不安レベルが大きく増加し、無不安レベルと高不安レベルに大きな変化は見られない。全体的な傾向としては、学習不安を感じている層が減少したと言えるであろう。

⑶　同一回答者の変化の分析

同定 ID が 2 回の質問紙調査で同一であった 12 件の回答について、数と正規分布性を考慮して対応のあるウィルコクソン検定を行った。結果を次表に示す。

表 6　学習不安に関する対応のあるウィルコクソン検定結果

4 月 No.	7 月 No.	*V* 値	*p* 値
2104_21	2107_17	4.5	*** 0.000
2104_37	2107_25	210.5	*** 0.000
2104_18	2107_18	46	** 0.004
2104_25	2107_16	71.5	** 0.004
2104_7	2107_3	162	* 0.026
2104_5	2107_2	13.5	* 0.042
2104_41	2107_27	13.5	0.077
2104_12	2107_12	52.5	0.080
2104_29	2107_31	194	0.199
2104_10	2107_9	77.5	0.298
2104_20	2107_22	35	0.428
2104_43	2107_30	34	0.524

*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001

5 %水準で有意差が認められたものは 12 件中 6 件であった。このことから、オンライン英会話の前後で英語学習に対する学習不安について変化があったのは半数程度と推測される。

なお、同定できなかった回答については全く対応がないとは言い切れないため、検定を行わなかった。

⑷　学習不安に関する因子分析

尺度に用いた Horwitz et al.（1986）は、学習不安の要因を「コミュニケーション不安」「テスト不安」「否定的評価」の 3 つに分けていた。Paee & Misieng（2012）によれば、日本語学習者を対象に研究した Aida（1994）は、「話すことの不安」「失敗に対する恐怖」「日本語に対する快適さ」「否定的態度」の 4 つに分け、Zhao（2007）は「コミュニケーション不安」「テスト不安」「否定的評価に対する恐怖」「英語授業に対する不安」の 4 つに分けている（筆者訳）。また、八島他（2009）は 5 つ、「教室内で英語を話す自身の欠如」「人前で話すことの恐怖」「教室で教えられる全てが理解できない不安」「英語授業に対する無力感と否定的態度」「英語話者と話す快適さ」とした（筆者訳）。

本研究では、4 月質問紙調査データを因子分析し、学生が学習不安を覚える要因を探ることとした。

4 月質問紙調査データに対して行った主成分分析の固有値（Component variances）は、次表の通りであった。

表 7　固有値変化

Comp.1	Comp.2	Comp.3	Comp.4
10.67	3.50	2.38	2.08
Comp.5	Comp.6	Comp.7	Comp.8
1.90	1.62	1.20	1.10

固有値を検討した結果、2 因子以上であるのは明らかと思われるが、Horwitz et al（1986）を含め、学習不安の要因を 2 とした先行研究は管見では見当たらない。Comp.5 と Comp.6 の間にギャップが看取されるが、33 という項目数から考えて因子数が多すぎることが懸念される。3 因子と仮定して因子分析を行うこととした。

なお、各質問の平均値、標準偏差を点検すると、フロア効果については見られなかったが、天井効果が見られたのは 8 件あった。通常であれば天井効果が疑われるデータは削除して分析するものと思われるが、この場合英会話に強い学習不安を抱いている場合は回答が偏るのは避けられないものと判断し、なぜそれほど学習不安に思うのか解明するため全てのデータを対象に分析することとした。

因子分析に当たっては、因子相互の相関が予想されるためプロマックス回転を指定した。R Commander のメニューから行ったので、推定法は最尤法である。

因子分析に際しては、因子負荷量 3.5 以上を基準として分析対象とすることとした。2 つ以上の因子に絶対値 3.5 以上の負荷量を示した項目と全ての因子について絶対値 3.5 未満の負荷量であった項目を削除し、因子分析を 3 回行った。

資料 3-3 に、学習不安に関する因子分析結果を、因子

負荷量順に示す。

なお、プロマックス回転を指定したため、因子負荷量が1.0を超えるものがある。

第1因子と第2因子共に緊張、混乱、心配、動揺が特徴的な因子であるが、第1因子には他の学生との比較意識が含まれることから、「失敗に対する対人性パニック症因子」と言えよう。

第2因子には予習をしても勉強しても不安に思わせる要素が含まれることから、「英語力に対する過敏性心配症因子」と言えよう。

第3因子は、ネーティブスピーカーに対するものであり、「ネーティブスピーカー苦手意識因子」と言えよう。

この因子分析では、完璧な英語を話すことに対する不安、つまりテスト不安の影響の大きな低下が示唆されることは、注目に値すると思われる。ただし、第3因子を構成する項目が2と少ない点は、留意すべきである。

各因子の因子寄与率と累積寄与率は次表の通りである。

表8　因子寄与率

	第1因子	第2因子	第3因子
因子寄与率	47.81%	32.20%	20.49%
累積寄与率	25.2%	42.1%	52.9%

また、因子相関は次表の通りである。

表9　因子相関

	第1因子	第2因子	第3因子
第1因子	1.000	0.374	0.542
第2因子		1.000	0.665
第3因子			1.000

2　学習動機に関する分析

⑴　質問別の分析

資料4-1に、学習動機に関する2つの質問紙調査の変化を、質問別に変化率順で示した。

次表に、自己決定性順に動機づけの変化を示した。

表10　自己決定性順の動機づけ変化

		変化率計
	内発的動機づけ	+1.22
外発的	同一視的調整	▲0.26
	取り入れ調整	0.00
	外的調整	▲0.10
	無動機	+0.56

内発的動機づけと無動機が増え、外発的動機づけが減っている。無動機がなぜ増えたのは今後の検討課題としたいが、内発的動機づけと外発的動機づけの変化は、学習者にとって好ましい変化と考えられる。

⑵　回答者別の分析

学習不安に関するデータ処理と同じように、5件法で得られた回答者別の結果を数値化した。

また、学習不安と同様に次表のようにレベル分けした。

表11　換算点によるレベル分け

レベル	換算点	備考
高動機	72～	平均4.0以上
中動機	63～71	平均3.5以上4.0未満
低動機	54～62	平均3.0以上3.5未満
無動機	53以下	平均3.0未満

資料4-2に、学習動機に関する2つの質問紙調査の変化を、回答別に換算点順で示した。

このレベル分けによる分布は次の通りである。

表12　レベル別分布

レベル	4月質問紙調査	7月質問紙調査
高動機	12（32.4%）	16（48.5%）
中動機	19（51.4%）	11（33.3%）
低動機	5（13.6%）	4（12.1%）
無動機	1（ 2.7%）	2（ 6.1%）

高動機が増え、中動機が減り、低動機・無動機はほぼ変化がないと言える。

⑶　同一回答者の変化の分析

表13　動機に関する対応のあるウィルコクソン検定結果

4月No.	7月No.	*V*値	*p*値
2104_10	2107_9	16	** 0.001
2104_18	2107_18	66	** 0.002
2104_29	2107_31	0	** 0.002
2104_21	2107_17	28	** 0.010
2104_5	2107_2	0	0.056
2104_25	2107_16	10	0.109
2104_12	2107_12	5.5	0.167
2104_41	2107_27	4.5	0.479
2104_43	2107_30	21	0.524
2104_7	2107_3	18	0.628
2104_20	2107_22	21	0.713
2104_37	2107_25	20	0.810

*：p<0.05、**：p<0.01、***：p<0.001

5％水準で有意差が認められたのは4件、有意傾向と思われるのは1件であった。オンライン英会話の前後で英語学習に対する動機について変化があったのは、半数以下と推測される。

3　学習不安と学習動機の相関について

ウィルコクソン検定結果で、学習不安・動機ともに5％水準で有意差が認められたものは12件中2件、1件は動機が有意傾向であった。

また、学習不安と学習動機のピアソンの積率相関結果は、4月質問紙調査及び7月質問紙調査について次表の通りである。

表 14　学習不安と学習動機のピアソンの積率相関結果

	相関係数	*p* 値
4月質問紙調査	.015	.92
7月質問紙調査	.052	.77

結果が明らかと思われるので掲載しないが散布図の検討からも、学習不安の軽減と学習動機の高揚に、この時点ではほぼ相関はないと考えられる。

Ⅳ　半構造化面接調査概要

⑴　実施時期

2021年9月

⑵　対象

4月と7月の回答のうち、同定IDが一致したのは16件であった。このうち、4月と7月の換算点を比較して、プラス・マイナスで大きく変化したものと、ほとんど変化しなかったものにメールで協力依頼を送付した。その結果、4名が調査協力を申し出てくれた。

対象者の概要は、面接順に次表の通りである。

記号	4月 No.	7月 No.	所属クラス
A	2104_21	2107_17	3/21
B	2104_37	2107_25	6/21
C	?	?	20/21
D	2104_20	2107_22	3/21

Cは、同定IDは忘れたけれど、是非筆者の研究に協力したいと連絡してきてくれた学生である。思い出せる番号を何度か言ってもらい該当はなかったが、本人が絶対に2回とも回答したと主張したため、面接調査対象とした。

⑶　方法

春学期が終了していたこと、コロナ・ウィルス感染の危険性も考慮し、面接はzoomで行い録画した。

質問項目は次表の通りである。

表 15　面接調査質問項目

①	5回のオンライン英会話の感想について
②	自分が受けてきた高校時代の授業について
③	自分の英語力について
④	英語で会話することに関する学期始めと終わりの意識の違いについて
⑤	英語学習に対する学期始めと終わりの意識の違いについて
⑥	その他、英語授業を通して感じたことを何でも

資料5に、それぞれの回答概要を示した。

なお、録音データを文字データの変換は、録画を聞きながらスマートフォンに向かって発声し、MS Word音声認識機能によって行った。様々なアプリケーション・ソフトウェア・Webページが開発されているが、上記の方法が最も認識率が高く快適にデータ変換をすることができた。

Ⅴ　半構造化面接調査分析

面接調査の文字データの分析には、樋口耕一氏によるフリーソフトウェアKH Coder Version 3.Beta.04aを使用した。

回答の文字数と、多く出現した語の出現回数の合計を次表に示す。なお、頻出語の抽出基準は、誰か1人に2回以上の出現があった語と、2人以上に1回以上の出現があった語とした。

表 16　2回以上出現した単語の出現回数合計

記号	文字数	頻出語の出現数
A	1950字	140回
B	3087字	254回
C	755字	43回
D	3640字	302回

それぞれの文字データ中、肯定的なもの（「嬉しい」「できる」など）と、否定的なもの（「苦手」「難し」など）の出現回数と率の概要を次表に示す。なお、同じ単語であっても前後の文脈から判断して意味が異なる場合がある。例えば、「楽しい」の後に「わけではなかった」が来ると、意味は逆転する。このため、キーワード検索など行い精査した。詳細は資料6に示した。

表 17

肯定的

	A	B	C	D
合計	12	20	1	26
%	8.6%	7.9%	2.3%	8.6%

否定的

	A	B	C	D
合計	5	3	6	3
%	3.6%	1.2%	14.0%	1.0%

A、B、D の 3 名がオンライン英会話に肯定的な感情を持っていることは、確かと思われる。C は学期前後の意識の変化に対する④⑤の回答から、一概に否定的とも思われず、肯定的と推察される。

面接調査質問①の回答では、いずれも最初は不安だったが最後は不安が減退したと答えている。「不安」に思わなくなった原因を、A は「慣れ」、B は「楽しさ」、D は「安心」としている。C は考えても何が原因か分からないようであった。

面接調査質問⑤の学期前後の意識の違いについての回答により、学習動機が高揚したかどうかを推測できる。A は高い動機のまま変化がなく、C は動機高揚を示唆し、B と D に明確な行動変容につながる動機高揚が見られた。

ここで、同一回答者であると判明している 3 名について、換算点順回答者別状況の学習不安と学習動機について、資料 3-2 及び 4-2 に基づき次表に示す。

表 18

記号	不安		動機	
	4 月	7 月	4 月	7 月
A	72	102	81	74
B	128	83	71	74
D	120	123	63	62

A は、不安が増大し、動機が減退していた。

B は、不安が減退し、動機はほぼ変わらなかった。

D は、不安が中程度でほぼ変わらず、動機も中程度と低程度の境界線でほぼ変わらなかった。

このように、面接調査と質問紙調査の結果は異なる部分があると解される。4 名全ての面接調査に対する真剣で誠実な態度から、改めて聞かれて考えて初めて分かったことが、異なる結果につながった可能性があるのではないだろうか。特に、D の回答からは、励ましによる意欲高揚が強く感じられ、このことは質問紙調査では分からなかったことである。質問紙調査と面接調査の異同は、質問紙調査では分からない、または明確には意識されない何かを面接調査が拾い上げた可能性を示唆していると思われ、興味深い。

なお、D のみが、当初感じていた「完璧な」英語を言わなければならない不安の解消を回答している。さらに、A と D が単語・ボキャブラリの必要を感じたと回答している。

Ⅵ　考察

本研究では、オンライン英会話は英語学習を推進する影響を与えることが分かった。オンライン英会話の実施により、学習不安が低減し、学習動機が高揚する可能性がある。また、因子分析の結果から、クラスメイトなど対人性の不安因子が占める割合が最も高く、英語力に対する不安因子やネーティブスピーカーに対する不安因子は比較的低いことが分かった。特に、自身に完璧を求めるテスト不安の影響の大きな低下が示唆されていることは、注目に値すると思われる。

このことから、オンライン英会話を取り入れた英語授業においては、次の工夫が考えられる。

失敗に対する不安を除去するためには、話すことに失敗はつきものだという雰囲気を作ること、エラー・コレクションは慎重に行うこと、ペア・ワーク、グループ・ワークを多く取り入れて少人数で失敗する経験を多くさせること、など考えられる。

また、英語力に対する不安を除去するためには、語彙の習得・活用練習・小テストを繰り返し行うことで語彙増強を図ること、教員が英語で授業する場合には理解度を点検しつつ平易な英語でゆっくりと話すこと、文法項目の説明はコミュニケーション上不可欠な最低限なものに限り長い時間割かないこと、など考えられる。

ネーティブスピーカーに対する不安に関しては、7 月時点では減少しており、オンライン英会話を授業で行っていること自体がネーティブスピーカーに対する不安除去に効果的であることを示している。

動機については、内発的動機づけと高動機が増え、外発的動機づけと中動機が減った。明確な相関関係は見られなかったが、意欲が高い場合にはオンライン英会話は意欲高揚につながった可能性がある。また、回答者の同定は限られることから推測の域を出ないが、意欲が非常に低い場合にはオンライン英会話は意欲高揚に効果がなかった可能性もある。低意欲の場合は調査同意を得るのも困難が予想されるが、今後、可能であれば面接調査などで研究したい分野ではある。

最後に、文法知識が貧弱であるという意識や、発音が完璧でないという意識、さらには教わったことを完璧に覚えないと英会話ができないという過剰な意識が弱いことが、オンライン英会話を楽しむことに良い効果を及ぼしていると思われる。英語学習の向上のために、楽しみ

ながら話す経験の次に何をすべきかは、今後の研究課題としたい。

謝辞

調査に協力してくれた学生の皆さんに感謝申し上げます。今後とも、健康に留意しつつ勉学に励まれることを期待します。

引用文献

Alrabai, F. (2014) A Model of Foreign Language Anxiety in the Saudi EFL Context. English Language Teaching (7-7), pp.82-101.〈http://dx.doi.org/10.5539/elt.v7n7p82〉.

茅野潤一郎（2018）即興的スピーキングに対する意識と学習経験―英語中級レベルの大学生の場合―．中部地区英語教育学会紀要（47）、pp.17-24.〈https://doi.org/10.20713/celes.47.0_17〉.

藤井聡美（2020）英語学習者が抱える授業内言語不安の解消に向けて：混合研究を通した考察．JACET 北海道支部紀要（16）、pp.57-81.〈http://www.jacet-hokkaido.org/JACET_RBET_pdf/2020/Fujii_2020.pdf〉

廣森友人（2005）外国語学習者の動機づけを高める３つの要因：全体傾向と個人差の観点から．大学英語教育学会紀要（41）、pp.37-50.〈https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10501477/1〉.

Horwitz, E. K., Horwitz, M. B. & Cope, J. (1986) Foreign Language Classroom Anxiety. The Modern Language Journal (70-2), pp. 123-132.〈https: //doi. org/10. 2307/327317〉.

飯村文香（2016）日本人英語学習者のプレゼンテーションと不安―プレゼンテーションコンテストの効果検証―．関東甲信越英語教育学会誌（30）、pp.71-84.〈https://doi.org/10.20806/katejournal.30.0_71〉.

飯野厚・藤井彰子・藪田由己子・佐藤ヘザー・ジョンソン・中村洋一・岡秀夫（2020）オンライン対話を取り入れた発信型の指導が英語スピーキング能力に与える影響．法政大学多摩論集（36）、pp.95-113.〈http://doi.org/10.15002/00023163〉.

磯田貴道（2009）英語でのスピーキングに対する抵抗感の軽減．JACET Journal（48）、pp.53-66.〈http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10501671〉.

片岡晃（2021）高等学校英語授業から考える大学で求められる英語授業．札幌国際大学研究紀要（52）、pp.93-111.

Krashen, S. D. (1982) Principles and Practice in Second Language Acquisition. New York. Pergamon Institute of English.

小林翔（2020）オンライン英会話学習によるスピーキング不安と意識の変容．茨城大学教育実践研究（39）、pp.89-102.〈http://hdl.handle.net/10109/00018839〉.

小林輝美（2017）大学英語授業におけるオンライン英会話利用の効果．杏林大学外国語学部紀要（29）、pp.67-94.

MASUTANI, Y (2021) The Foreign Language Anxiety of Japanese EFL Learners: Focusing on Anxiety When Speaking English. LET Kansai Chapter Collected Papers (19), pp.1-14.〈https://doi.org/10.50924/letkansai.19.0_1〉.

元田静（2000）日本語不安尺度の作成とその検討―目標言語使用環境における第二言語不安の測定―．教育心理学研究（48）、pp.422-432.〈https://doi.org/10.5926/jjep1953.48.4_422〉.

Paee, R. B. & Misieng, J.（2012）外国語教室不安尺度―３つのモデルの比較―．第９回マレーシア日本語教育研究会発表会．〈https://www.researchgate.net/profile/Jecky-Misieng/publication/262525037_Foreign_Language_Classroom_Anxiety_Scale_A_Comparison_of_Three_Models/links/56aac9ed08ae8f3865666242/Foreign-Language-Classroom-Anxiety-Scale-A-Comparison-of-Three-Models.pdf〉

渡慶次正則・Fewell, N.・津嘉山淳子・Kuckelman, M.（2017）スカイプ・オンライン英会話の授業外利用の効果と課題、動機づけ―Ｍ大学英語専門中級レベル学生の事例―．名桜大学総合研究（26）、pp.9-20.〈http://hdl.handle.net/20.500.12001/22466〉.

遠山道子・森一将・新谷真由（2017）オンライン英会話グループ学習を用いたスピーキング技能と心理的要因の改善―英語レメディアル教育への適用に向けて―．外国語教育メディア学会関東支部研究紀要（1）、pp.37-59.〈https://doi.org/10.24781/letkj.1.0_37〉.

八島智子・静哲人・山根繁・Kimberly, A. N.・竹内理・吉澤清美（2009）The Interplay of Classroom Anxiety, Intrinsic Motivation, and Gender in the Japanese EFL Context、日本人英語学習者における外国語不安と学習動機の関係と性差．関西大学外国語教育研究（17）、pp.41-64.〈http://hdl.handle.net/10112/768〉.

Yaikhong, K. & Usaha, S. (2012) A Measure of EFL Public Speaking Class Anxiety: Scale Development and Preliminary Validation and Reliability. English Language Teaching (5-12), pp.23-35.〈http://dx.doi.org/10.5539/elt.v5n12p23〉.

資料１

英語に関する質問紙調査（質問項目のみ）

次の質問に次の５段階で答えてください。

１：全くそう思わない　２：あまり思わない　３：分からない　４：少しそう思う　５全くそう思う

1　英語の授業で話すとき自信がもてない。
2　＊　英語の授業で間違うことは気にならない。
3　英語の授業で当てられると思うと体が震える。
4　英語の授業で先生の言っていることが理解できないととても不安だ。
5　＊　もっと英語の授業があってもよいと思っている。
6　英語の時間授業と関係ないことを考えていることがよくある。
7　他の生徒の方が自分よりよくできると思っている。
8　＊　英語の授業中のテストではだいたい落ち着いている。
9　英語の授業で準備なしに話さないといけない時、パニックになる。
10　英語の単位を落としたときの影響が心配だ。
11　＊　英語の授業で動揺する人の気持ちがわからない。
12　英語の授業では、緊張のあまり、知ってたことも忘れてしまうときがある。
13　英語の授業で自分からすすんで答えるのは恥ずかしい。
14　＊　英語をネーティブスピーカーと話すとき緊張しない。
15　先生が何を訂正しているのか理解できないとき動揺する。
16　英語の授業の予習を十分にしていても心配になる。
17　よく英語の授業を休みたくなる。
18　＊　英語の授業で話すのに自信がある。
19　先生が自分の間違いをいちいち直しそうなので心配だ。
20　英語のクラスで当たりそうになると胸がどきどきする。
21　英語のテスト勉強をすればするほど、混乱する。
22　＊　英語の授業の予習をよくしないといけないというプレッシャーは感じない。
23　常に他の学生の方が英語で話すのが上手だと感じている。
24　他の学生の前で英語を話すとき自意識がとても高くなる。
25　英語のクラスは進むのが速いのでついていけるかどうか心配である。
26　他の科目よりも英語のクラスの方か緊張する。
27　英語のクラスで話すとき緊張したり混乱したりする。
28　＊　英語のクラスに向かうとき自信をもてるしリラックスしている。
29　先生の言うことがすべて理解できないと不安になる。
30　英語を話すためにあまりに多くの文法規則を勉強しないといけないので圧倒される。
31　私が英語を話すと他の学生が笑うのではないかと思う。
32　＊　ネーティブスピーカーに会うときおそらくリラックスしていられると思う。
33　先生が、前もって準備していなかった質問をすると緊張する。
34　英語を勉強するのは楽しい。
35　英語を勉強して新しい発見があると嬉しい。
36　英語の知識が増えるのは楽しい。
37　英語の授業が楽しい。
38　将来使えるような英語の技能を身につけたい。
39　英語の勉強は自分にとって必要なことだ。
40　外国語を少なくともひとつは話せるようになりたい。
41　英語の勉強は自分の成長にとって役立つと思う。
42　英語を勉強しておかないと、後で後悔すると思う。
43　英語で会話ができると、何となくかっこうが良い。
44　英語くらいできるのは、普通だと思う。
45　英語を勉強するのは、良い成績を取りたいから。。
46　英語を勉強するのは、決まりのようなものだと思う。
47　英語を勉強しなければならない社会だ。
48　＊　授業から何を得ているのか、良く分からない。
49　＊　英語は勉強しても、成果が上がらないような気がする。
50　＊　英語を勉強する理由を分かろうとは思わない。
51　＊　英語を勉強していることは時間のむだだと思う。

資料２

数値による要約結果（質問項目中、逆転項目は文言修正）

		４月質問紙調査　n＝37							７月質問紙調査　n＝33						
		5	4	3	2	1	平均	偏差	5	4	3	2	1	平均	偏差
1	英語の授業で話すとき自信がもてない	15	15	4	3	0	4.14	0.92	8	18	1	6	0	3.85	1.00
2	英語の授業で間違うことは気になる	6	17	3	7	4	3.38	1.28	5	7	8	11	2	3.06	1.20
3	英語の授業で当てられると思うと体が震える	5	13	8	7	4	3.22	1.23	3	9	3	13	5	2.76	1.28
4	英語の授業で先生の言っていることが理解できないととても不安だ	16	13	5	3	0	4.14	0.95	3	16	2	11	1	3.27	1.13
5	もっと英語の授業があってもよいと思わない	1	2	23	8	3	2.73	0.80	0	2	18	11	2	2.61	0.70
6	英語の時間授業と関係ないことを考えていることがよくある	0	2	3	21	11	1.89	0.77	1	3	5	11	13	2.03	1.10
7	他の生徒の方が自分よりよくできると思っている	17	7	6	4	3	3.84	1.34	16	5	2	6	4	3.70	1.53
8	英語の授業中のテストではだいたい落ち着かない	5	8	15	7	2	3.19	1.08	6	13	8	5	1	3.55	1.06
9	英語の授業で準備なしに話さないといけない時、パニックになる	12	13	4	7	1	3.76	1.19	8	19	1	4	1	3.88	1.02
10	英語の単位を落としたときの影響が心配だ	13	12	5	4	3	3.76	1.28	10	13	5	3	2	3.79	1.17
11	英語の授業で動揺する人の気持ちがわかる	22	7	7	0	1	4.32	0.97	19	9	3	2	0	4.36	0.90
12	英語の授業では、緊張のあまり、知ってたことも忘れてしまうときがある	11	11	10	5	0	3.76	1.04	14	12	4	2	1	4.09	1.04
13	英語の授業で自分からすすんで答えるのは恥ずかしい	8	15	9	1	4	3.59	1.19	3	13	10	6	1	3.33	0.99
14	英語をネーティブスピーカーと話すとき緊張する	9	16	6	3	3	3.68	1.18	6	12	7	7	1	3.45	1.12
15	先生が何を訂正しているのか理解できないとき動揺する	8	14	10	3	2	3.62	1.09	4	15	7	7	0	3.48	0.97
16	英語の授業の予習を十分にしていても心配になる	7	13	7	8	2	3.41	1.19	3	14	3	10	3	3.12	1.22
17	よく英語の授業を休みたくなる	3	7	6	11	10	2.51	1.30	3	4	8	10	8	2.52	1.25
18	英語の授業で話すのに自信がない	27	8	0	2	0	4.62	0.76	17	11	2	3	0	4.27	0.94
19	先生が自分の間違いをいちいち直しそうなので心配だ	4	9	7	9	8	2.78	1.34	0	4	8	12	9	2.21	0.99
20	英語のクラスで当たりそうになると胸がどきどきする	10	18	2	3	4	3.73	1.26	7	15	5	3	3	3.61	1.20
21	英語のテスト勉強をすればするほど、混乱する	4	6	7	15	5	2.70	1.22	1	9	6	11	6	2.64	1.17
22	英語の授業の予習をよくしないといけないというプレッシャーを感じる	5	6	8	14	4	2.84	1.24	2	7	8	14	2	2.79	1.05
23	常に他の学生の方が英語で話すのが上手だと感じている	14	12	8	1	2	3.95	1.10	21	6	3	2	1	4.33	1.08
24	他の学生の前で英語を話すとき自意識がとても高くなる	1	3	16	9	8	2.46	1.02	0	9	5	11	8	2.45	1.15
25	英語のクラスは進むのが速いのでついていけるかどうか心配である	9	9	8	8	3	3.35	1.30	3	11	9	7	3	3.12	1.14
26	他の科目よりも英語のクラスの方か緊張する。	13	12	4	6	2	3.76	1.26	8	11	5	8	1	3.52	1.20
27	英語のクラスで話すとき緊張したり混乱したりする	11	14	6	5	1	3.78	1.11	7	16	3	7	0	3.70	1.05
28	英語のクラスに向かうとき自信がなくリラックスしていない	12	14	9	2	0	3.97	0.90	7	9	13	4	0	3.58	0.97

		4月質問紙調査　n＝37							7月質問紙調査　n＝33						
		5	4	3	2	1	平均	偏差	5	4	3	2	1	平均	偏差
29	先生の言うことがすべて理解できないと不安になる	13	11	6	6	1	3.78	1.18	6	15	4	7	1	3.55	1.12
30	英語を話すためにあまりに多くの文法規則を勉強しないといけないので圧倒される	11	13	4	7	2	3.65	1.25	7	13	9	3	1	3.67	1.02
31	私が英語を話すと他の学生が笑うのではないかと思う	5	4	7	10	11	2.51	1.39	2	6	6	8	11	2.39	1.30
32	ネーティブスピーカーに会うときおそらくリラックスしてないと思う	8	14	8	5	2	3.57	1.14	5	10	6	11	1	3.21	1.17
33	先生が、前もって準備していなかった質問をすると緊張する	12	15	5	4	1	3.89	1.07	7	20	1	4	1	3.85	1.00
34	英語を勉強するのは楽しい	3	17	12	2	3	3.41	1.01	5	15	9	4	0	3.64	0.90
35	英語を勉強して新しい発見があると嬉しい	8	20	4	4	1	3.81	1.00	13	14	2	4	0	4.09	0.98
36	英語の知識が増えるのは楽しい	14	15	5	2	1	4.05	1.00	16	13	3	1	0	4.33	0.78
37	英語の授業が楽しい	2	11	14	8	2	3.08	0.98	5	12	11	5	0	3.52	0.94
38	将来使えるような英語の技能を身につけたい	20	13	3	1	0	4.41	0.76	20	9	3	1	0	4.45	0.79
39	英語の勉強は自分にとって必要なことだ	20	13	2	2	0	4.38	0.83	17	11	3	2	0	4.30	0.88
40	外国語を少なくともひとつは話せるようになりたい	26	7	1	3	0	4.51	0.90	19	9	4	1	0	4.39	0.83
41	英語の勉強は自分の成長にとって役立つと思う	23	13	1	0	0	4.59	0.55	19	12	1	1	0	4.48	0.71
42	英語を勉強しておかないと、後で後悔すると思う	17	12	7	0	1	4.19	0.94	17	8	6	2	0	4.21	0.96
43	英語で会話ができると、何となくかっこうが良い	24	8	5	0	0	4.51	0.73	17	9	5	1	1	4.21	1.02
44	英語くらいできるのは、普通だと思う	1	1	9	13	13	2.03	0.99	0	3	11	11	8	2.27	0.94
45	英語を勉強するのは、良い成績を取りたいから	3	11	9	10	4	2.97	1.17	4	7	11	7	4	3.00	1.20
46	英語を勉強するのは、決まりのようなものだと思う	2	11	12	8	4	2.97	1.09	5	8	9	6	5	3.06	1.30
47	英語を勉強しなければならない社会だ	17	10	4	5	1	4.00	1.18	9	14	5	4	1	3.79	1.08
48	授業から何を得ているのか、良く分かる	9	14	10	3	1	3.73	1.02	12	13	7	1	0	4.09	0.84
49	英語は勉強すると、成果が上がる気がする	10	15	3	7	2	3.65	1.23	11	13	5	4	0	3.94	1.00
50	英語を勉強する理由を分かろうと思う	18	13	4	2	0	4.27	0.87	16	12	5	0	0	4.33	0.74
51	英語を勉強していることは時間のむだではない	30	6	0	1	0	4.76	0.60	24	6	2	1	0	4.61	0.75

資料3-1

学習不安に関する変化（質問別変化率順）（質問項目中、逆転項目は文言修正。▲はマイナス値）

	5	4	3	2	1	全体
（4）英語の授業で先生の言っていることが理解できないととても不安だ	▲34.2	13.3	▲ 7.5	25.2	3.0	▲0.86
(19) 先生が自分の間違いをいちいち直しそうなので心配だ	▲10.8	▲12.2	5.3	12.0	5.7	▲0.57
（3）英語の授業で当てられると思うと体が震える	▲ 4.4	▲ 7.9	▲12.5	20.5	4.3	▲0.46
(28) 英語のクラスに向かうとき自信がなくリラックスしていない	▲11.2	▲10.6	15.1	6.7	0.0	▲0.40
(32) ネーティブスピーカーに会うときおそらくリラックスしてないと思う	▲ 6.5	▲ 7.5	▲ 3.4	19.8	▲2.4	▲0.36
(18) 英語の授業で話すのに自信がない	▲21.5	11.7	6.1	3.7	0.0	▲0.35
（2）英語の授業で間違うことは気になる	▲ 1.1	▲24.7	16.1	14.4	▲4.8	▲0.32
（1）英語の授業で話すとき自信がもてない	▲16.3	14.0	▲ 7.8	10.1	0.0	▲0.29
(16) 英語の授業の予習を十分にしていても心配になる	▲ 9.8	7.3	▲ 9.8	8.7	3.7	▲0.28
(13) 英語の授業で自分からすすんで答えるのは恥ずかしい	▲12.5	▲ 1.1	6.0	15.5	▲7.8	▲0.26
(26) 他の科目よりも英語のクラスの方か緊張する	▲10.9	0.9	4.3	8.0	▲2.4	▲0.24
(29) 先生の言うことがすべて理解できないと不安になる	▲17.0	15.7	▲ 4.1	5.0	0.3	▲0.24
(25) 英語のクラスは進むのが速いのでついていけるかどうか心配である	▲15.2	9.0	5.7	▲0.4	1.0	▲0.23
(14) 英語をネーティブスピーカーと話すとき緊張する	▲ 6.1	▲ 6.9	5.0	13.1	▲5.1	▲0.22
（7）他の生徒の方が自分よりよくできると思っている	2.5	▲ 3.8	▲10.2	7.4	4.0	▲0.14
(15) 先生が何を訂正しているのか理解できないとき動揺する	▲ 9.5	7.6	▲ 5.8	13.1	▲5.4	▲0.14
（5）もっと英語の授業があってもよいと思わない	▲ 2.7	0.7	▲ 7.6	11.7	▲2.0	▲0.12
(20) 英語のクラスで当たりそうになると胸がどきどきする	▲ 5.8	▲ 3.2	9.7	1.0	▲1.7	▲0.12
(31) 私が英語を話すと他の学生が笑うのではないかと思う	▲ 7.5	7.4	▲ 0.7	▲2.8	3.6	▲0.12
(27) 英語のクラスで話すとき緊張したり混乱したりする	▲ 8.5	10.6	▲ 7.1	7.7	▲2.7	▲0.09
(21) 英語のテスト勉強をすればするほど、混乱する	▲ 7.8	11.1	▲ 0.7	▲7.2	4.7	▲0.07
(22) 英語の授業の予習をよくしないといけないというプレッシャーを感じる	▲ 7.5	5.0	2.6	4.6	▲4.8	▲0.05
(33) 先生が、前もって準備していなかった質問をすると緊張する	▲11.2	20.1	▲10.5	1.3	0.3	▲0.04
(24) 他の学生の前で英語を話すとき自意識がとても高くなる	▲ 2.7	19.2	▲28.1	9.0	2.6	0.00
(17) よく英語の授業を休みたくなる	1.0	▲ 6.8	8.0	0.6	▲2.8	0.00
(30) 英語を話すためにあまりに多くの文法規則を勉強しないといけないので圧倒される	▲ 8.5	4.3	16.5	▲9.8	▲2.4	0.02
(10) 英語の単位を落としたときの影響が心配だ	▲ 4.8	7.0	1.6	▲1.7	▲2.0	0.03
(11) 英語の授業で動揺する人の気持ちがわかる	▲ 1.9	8.4	▲ 9.8	6.1	▲2.7	0.04
（9）英語の授業で準備なしに話さないといけない時、パニックになる	▲ 8.2	22.4	▲ 7.8	▲6.8	0.3	0.12
（6）英語の時間授業と関係ないことを考えていることがよくある	3.0	3.7	7.0	▲23.4	9.7	0.14
(12) 英語の授業では、緊張のあまり、知ってたことも忘れてしまうときがある	12.7	6.6	▲14.9	▲7.5	3.0	0.33
（8）英語の授業中のテストではだいたい落ち着かない	4.7	17.8	▲16.3	▲3.8	▲2.4	0.36
(23) 常に他の学生の方が英語で話すのが上手だと感じている	25.8	▲14.3	▲12.5	3.4	▲2.4	0.39

資料3-2

学習不安に関する変化（回答換算点順）

No.	5	4	3	2	1	換算点		No.	5	4	3	2	1	換算点
2104_12	25	4	2	0	2	149		2107_36	24	0	5	2	2	141
2104_27	28	0	1	2	2	149	高不安	2107_12	19	7	4	2	1	140
2104_23	22	7	2	2	0	148		2107_2	18	8	3	4	0	139
2104_3	20	2	10	0	1	139		2107_6	14	13	5	0	1	138
2104_43	14	10	8	1	0	136		2107_10	17	7	7	1	1	137
2104_33	12	12	5	4	0	131		2107_30	14	9	7	3	0	133
2104_32	15	9	3	4	2	130		2107_33	7	19	5	2	0	130
2104_5	15	4	9	5	0	128		2107_37	9	16	5	1	2	128
2104_37	10	16	3	1	3	128	中不安	2107_19	3	22	7	0	1	125
2104_28	10	16	2	2	3	127		2107_27	12	13	0	5	3	125
2104_4	14	4	11	3	1	126		2107_22	9	12	7	4	1	123
2104_15	14	7	7	2	3	126		2107_18	5	15	8	4	1	118
2104_42	7	16	7	2	1	125		2107_16	3	13	12	3	2	111
2104_25	4	19	5	5	0	121		2107_31	4	13	5	10	1	108
2104_36	9	16	1	2	5	121		2107_38	3	11	9	10	0	106
2104_20	8	14	5	3	3	120		2107_34	5	15	0	7	6	105
2104_34	9	10	9	3	2	120		2107_39	0	17	5	11	0	105
2104_44	10	7	13	0	3	120		2107_8	5	8	8	9	3	102
2104_24	2	19	9	3	0	119		2107_17	2	11	8	12	0	102
2104_13	11	10	1	8	3	117		2107_24	3	14	3	9	4	102
2104_29	2	18	9	4	0	117	低不安	2107_35	4	9	8	9	3	101
2104_41	9	12	4	4	4	117		2107_40	0	10	15	6	2	99
2104_19	5	12	10	2	4	111		2107_4	0	8	15	10	0	97
2104_26	3	16	2	12	0	109		2107_28	5	10	2	10	6	97
2104_35	2	16	5	8	2	107		2107_32	2	12	2	15	2	96
2104_7	6	11	6	4	6	106		2107_13	5	7	5	10	6	94
2104_14	5	9	9	8	2	106		2107_3	0	13	3	14	3	92
2104_18	3	8	9	9	4	96		2107_29	4	9	2	11	7	91
2104_22	4	7	6	14	2	96		2107_15	3	6	6	14	4	89
2104_16	1	10	6	15	1	94	無不安	2107_23	2	7	6	15	3	89
2104_8	4	5	10	9	5	93		2107_9	3	7	5	12	6	88
2104_38	2	5	11	15	0	93		2107_25	4	10	0	8	11	87
2104_40	2	7	11	9	4	93		2107_20	4	5	6	7	11	83
2104_17	6	7	1	5	14	85								
2104_10	1	3	10	14	5	80								
2104_39	3	3	7	5	15	73								
2104_21	0	2	7	19	5	72								

資料3-3

学習不安に関する因子分析結果（因子負荷量順）

		第１因子	第２因子	第３因子	共通性
9	英語の授業で準備なしに話さないといけない時、パニックになる	***.062***	－.230		.817
27	英語のクラスで話すとき緊張したり混乱したりする	***.796***		.109	.762
3	英語の授業で当てられると思うと体が震える	***.791***	－.121	.102	.571
20	英語のクラスで当たりそうになると胸がどきどきする	***.734***	.163		.736
8	英語の授業中のテストではだいたい落ち着かない	***.618***			.359
12	英語の授業では、緊張のあまり、知ってたことも忘れてしまうときがある	***.606***	－.156		.277
23	常に他の学生の方が英語で話すのが上手だと感じている	***.554***	.125		.388
19	先生が自分の間違いをいちいち直しそうなので心配だ	***.446***	.283		.426
11	英語の授業で動揺する人の気持ちがわかる	***.419***	.250	－.236	.294
31	私が英語を話すと他の学生が笑うのではないかと思う	***.358***	.216	.133	.362
22	英語の授業の予習をよくしないといけないというプレッシャーを感じる	***.343***	.156		.188
26	他の科目よりも英語のクラスの方か緊張する。		***.941***	－.320	.614
17	よく英語の授業を休みたくなる	－.237	***.884***	－.103	.490
16	英語の授業の予習を十分にしていても心配になる		***.669***	.177	.701
15	先生が何を訂正しているのか理解できないとき動揺する		***.620***	.170	.520
21	英語のテスト勉強をすればするほど、混乱する	－.160	***.454***	.168	.226
30	英語を話すためにあまりに多くの文法規則を勉強しないといけないので圧倒される	.269	***.335***	.151	.412
32	ネーティブスピーカーに会うときおそらくリラックスしてないと思う		－.207	***1.077***	.995
14	英語をネーティブスピーカーと話すとき緊張する	－.105		***.743***	.575

資料4-1

学習動機に関する変化（質問別変化率順）（質問項目中、逆転項目は文言修正。▲はマイナス値）

	5	4	3	2	1	全体	内発的動機づけ	同一視的調整	取り入れ調整	外的調整	無動機
(37) 英語の授業が楽しい。	9.7	6.6	▲4.5	▲6.5	▲ 5.4	0.43	●				
(48) 授業から何を得ているのか、よく分かる	12.0	1.6	▲5.8	▲5.1	▲ 2.7	0.36					●
(49) 英語は勉強して、成果が上がる気がする	6.3	▲ 1.1	7.0	▲6.8	▲ 5.4	0.29					●
(35) 英語を勉強して新しい発見があると嬉しい。	17.8	▲11.6	▲4.8	1.3	▲ 2.7	0.28	●				
(36) 英語の知識が増えるのは楽しい。	10.6	▲ 1.1	▲4.4	▲2.4	▲ 2.7	0.28	●				
(44) 英語くらいできるのは、普通だと思う。	▲ 2.7	6.4	9.0	▲1.8	▲10.9	0.25			●		
(34) 英語を勉強するのは楽しい。	7.0	▲ 0.5	▲5.2	6.7	▲ 8.1	0.23	●				
(46) 英語を勉強するのは、決まりのようなものだと思う。	9.7	▲ 5.5	▲5.2	▲3.4	4.3	0.09				●	
(50) 英語を勉強する理由を分かろうと思う	▲ 0.2	1.2	4.3	▲5.4	0.0	0.06					●
(38) 将来使えるような英語の技能を身につけたい。	6.6	▲ 7.9	1.0	0.3	0.0	0.05		●			
(45) 英語を勉強するのは、良い成績を取りたいから。	4.0	▲ 8.5	9.0	▲5.8	1.3	0.03				●	
(42) 英語を勉強しておかないと、後で後悔すると思う。	5.6	▲ 8.2	▲0.7	6.1	▲ 2.7	0.02			●		
(39) 英語の勉強は自分にとって必要なことだ。	▲ 2.5	▲ 1.8	3.7	0.7	0.0	▲0.08		●			
(41) 英語の勉強は自分の成長にとって役立つと思う。	▲ 4.6	1.2	0.3	3.0	0.0	▲0.11		●			
(40) 外国語を少なくともひとつは話せるようになりたい。	▲12.7	8.4	9.4	▲5.1	0.0	▲0.12		●			
(51) 英語を勉強していることは時間のむだではない	▲ 8.4	2.0	6.1	0.3	0.0	▲0.15					●
(47) 英語を勉強しなければならない社会だ。	▲18.7	15.4	4.3	▲1.4	0.3	▲0.21				●	
(43) 英語で会話ができると、何となくかっこうが良い。	▲13.3	5.7	1.6	3.0	3.0	▲0.30			●		

資料4-2

学習動機に関する変化（回答換算点順）

No.	5	4	3	2	1	換算点	
2104_17	15	2	0	1	0	85	高動機
2104_21	13	2	2	1	0	81	
2104_27	14	1	1	2	0	81	
2104_35	12	3	2	0	1	79	
2104_18	9	6	3	0	0	78	
2104_34	7	10	1	0	0	78	
2104_41	11	3	3	1	0	78	
2104_33	8	8	1	1	0	77	
2104_14	9	5	2	2	0	75	
2104_5	11	3	0	2	2	73	
2104_23	10	3	2	2	1	73	
2104_36	11	3	0	1	3	72	
2104_24	4	11	1	2	0	71	中動機
2104_28	8	2	7	1	0	71	
2104_37	8	5	3	0	2	71	
2104_3	8	0	10	0	0	70	
2104_15	10	2	2	2	2	70	
2104_22	5	8	3	2	0	70	
2104_8	4	9	3	2	0	69	
2104_13	6	7	2	2	1	69	
2104_42	4	8	5	1	0	69	
2104_44	8	1	8	0	1	69	
2104_12	10	3	0	1	4	68	
2104_25	0	14	3	1	0	67	
2104_26	1	14	0	3	0	67	
2104_7	9	2	1	3	3	65	
2104_4	9	1	2	3	3	64	
2104_20	3	8	3	4	0	64	
2104_10	0	13	1	4	0	63	
2104_16	1	10	4	3	0	63	
2104_29	1	10	4	3	0	63	低動機
2104_38	2	8	4	4	0	62	
2104_43	4	5	5	3	1	62	
2104_40	3	5	6	2	2	59	
2104_32	3	6	3	4	2	58	
2104_39	4	5	3	3	3	58	
2104_19	2	4	5	5	2	53	無動機

No.	5	4	3	2	1	換算点
2107_20	15	1	2	0	0	85
2107_28	13	5	0	0	0	85
2107_36	14	2	1	1	0	83
2107_2	12	5	0	1	0	82
2107_8	14	0	4	0	0	82
2107_27	13	3	0	2	0	81
2107_23	11	4	3	0	0	80
2107_31	8	9	1	0	0	79
2107_33	10	6	1	1	0	79
2107_9	14	1	0	1	2	78
2107_32	12	3	0	3	0	78
2107_12	12	2	0	4	0	76
2107_34	10	5	0	2	1	75
2107_17	7	8	1	2	0	74
2107_25	13	1	0	1	3	74
2107_16	3	12	3	0	0	72
2107_29	7	6	2	3	0	71
2107_37	6	7	4	0	1	71
2107_15	7	5	4	1	1	70
2107_13	12	0	1	1	4	69
2107_38	5	7	3	3	0	68
2107_3	5	8	2	1	2	67
2107_24	2	11	3	2	0	67
2107_30	1	11	4	2	0	65
2107_4	0	12	4	2	0	64
2107_10	1	9	7	1	0	64
2107_18	0	9	9	0	0	63
2107_6	0	8	10	0	0	62
2107_22	1	9	6	1	1	62
2107_40	0	8	9	1	0	61
2107_19	0	5	10	3	0	56
2107_35	1	5	2	7	3	48
2107_39	0	1	6	10	1	43

資料５

面談調査回答概要

①　５回のオンライン英会話の感想について

記号	回答概要
A	不安だったが面白いと思った。慣れてきて不安がなくなった。
B	最初はすごい不安だったが、話が通じて楽しくなった。
C	心配で、分からないことが多かったけれど、全然できない状態からから少しできるようになった。
D	緊張して予習した単語さえ出てこなかったが、４回目から単語だけでもコミュニケーションできるようになり、自信ができて不安に思わなくなった。

②　自分が受けてきた高校時代の授業について

記号	回答概要
A	レベルは低いと思う。文法訳読８～９割。残りは班活動で、５～６人でゲームをした。
B	教科書を勉強して、プリントの問題を解いて２人一組で答合わせをした。
C	４技能は等しく扱われたが、生徒が話す機会は多くない。自分はほぼ話したことがない。
D	教科書を暗記すればできた。中学校の復習のような授業だった。文法訳読だった。

③　自分の英語力について

記号	回答概要
A	高一で英検３級。出来る方だと思う。話すのは苦手で、ぱっと出てこない。
B	嫌いだった。中一から諦めた。話すのは何となく通じる感じはする。
C	少し出来る。聞くことは苦手だけれど、文法は大丈夫。
D	英語は苦手で、英語力はかなり低い。英検も受けたことがない。

④　英語で会話することに関する学期始めと終わりの意識の違いについて

記号	回答概要
A	最初は、やったことがないことをやるので楽しみだった。終わってみて、思ったより難しいと感じている。単語を知らないことが分かった。
B	最初は、理解できない、伝わらないと思っていたけれど、最後は伝わると思った。
C	最初は、怖かくて10段階の10だったけれど、終わったら怖さは４くらいになって意欲が出た。
D	最初は、不安に思っていたけれど、終わったら積極性が出てきた。

⑤　英語学習に対する学期始めと終わりの意識の違いについて

記号	回答概要
A	嫌ではないが苦手な英語に対して、克服したいと思って変わらない意欲をもって最後まで取り組めた。
B	英語の歌などに日頃意識するようになった。
C	少しずつ焦らずに勉強すれば上達すると思うようになった。
D	日記を英語で付けたり洋楽を聞いたり、語彙力がないから楽しんで勉強しようという意識になった。

⑥　その他、英語授業を通して感じたことを何でも

記号	回答概要
A	マンガなどの日本文化が割とよく知られているのが嬉しかった。文法は忘れやすい。
B	フィリピン人英語教師に良く“Help”と言われて頼りにされていた。かっこいいと思うけれど抵抗はある。
C	嫌ではないけれど下手だから逃げたいと思う。
D	やる気にならないと楽しめないと思った。

資料６

面接調査において多く出現した語の出現回数

肯定的

	A	B	C	D
合計	12	20	1	26
%	8.6%	7.9%	2.3%	8.6%
分かる	2	6	1	5
伝わる		4		2
言える				2
楽しむ		1		2
喋れる				2
慣れる	2			
使える				3
通じる		2		
楽しい		3		
楽しみ	3			
嬉しい	1			4
良い				
面白い	4			
やる気				4
理解		4		2

否定的

	A	B	C	D
合計	5	3	6	3
%	3.6%	1.2%	14.%	1.%
苦手	4			2
不安	1			
心配			1	
緊張		1	1	1
嫌い		2		
怖い			4	